

### 「ジェンダーの平等」をいかに実現するか

#### 【そもそもジェンダーとは?】

ジェンダーとは、日本語で「社会的性別」と訳されます。たとえば、「男の子は青、女の子はピンク」とか、「お父さんは会社で働いて、お母さんは家で家事や育児をする」というように、男女の違いによって周りの人が無意識に抱く、イメージや役割分担があります。このように身体的性別に対して、社会のなかで「男らしい」あるいは「女らしい」とされる役割や行動、考え方や見た目などがあることを、ジェンダー（社会的性別）といいます。

「男だから」「女だから」と決めつけることで男女の間の偏見や差別、不平等が生まれましたが、女性が社会の中で活躍するようになり、そこでの女性の権利が制限されていることから、近年では社会的な問題になってきました。

#### 【ジェンダーギャップ（男女格差）の現状】

ジェンダーギャップとは、男女の違いにより生まれる格差のことです。これを表すデータとして、世界経済フォーラムが発表している「ジェンダーギャップ指数」があります。この指数は、国ごとに

経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータと、総合的な指数が数字で示されます。2021年の結果を見ると、日本は健康や教育の分野ではほとんど男女格差は見られません。全体では156か国中120位と低迷しています。原因としては、経済や政治の分野において女性の参画率が低いことが挙げられ、こうした分野における格差の解消が求められています。

経済分野では、日本は156か国中117位です。2020年までに30%を目指していた女性管理職の割合は、14.7%と低迷したままで、社会の指導的地位を占める女性は増えていません。また、女性の平均所得は男性より43.7%低くなっています。特に政治分野に至っては、女性国会議員の割合が9.9%で156か国中147位という状態です。

最近の日本の政治家等の発言や謝罪会見を顧みると、多大な影響力があるにも関わらず、何の反省もしていないことが垣間見えます。

●子どもを産まなかったほうが問題なんだから（A氏）

女性は子どもを産む機械ではありません。子どもを産む・産まないというのは個人の権利で

あり、政治の失策を女性に責任転嫁しているだけでなく、産めない事情を抱えた女性に対する配慮にも欠けています。

●女性がたくさん入っている理事会の会議は時間がかかります（M氏）

「女性は黙っている」という男性優位社会の「本音」が露呈したものであり、未だ根付いている時代錯誤な考え方です。

●女性はいくらでも嘘をつける（S氏）

性暴力被害者の相談事業に関することへの発言で、性暴力に遭った被害者を二次的に加害するだけでなく、女性はどうつきだという偏見も入っています。

この他にも、政権与党の幹部が「主要会議に女性議員を招くが、発言は認めず『見学』にとどめる」と発表し、日本政界のジェンダーギャップが世界でニュースになりました。こうした男性優位の社会の仕組みそのものを変えない限り、「ジェンダーの平等」は達成できません。

#### 【LGBTQ（性的少数者の総称）】

ジェンダーの問題を考えるときに覚えておきたいのが、LGBTQの人たちのことです。これまで性の違いは、男性と女性に分けるの

が一般的でした。しかし、体の性と心の性が一致しなかったり、同性の人が恋愛対象になったりする人もいます。男女以外にも多様な性があり、LGBTQの人たちが私たちの身近で一緒に暮らしていることを知り、社会全体で受け入れていくことが大切です。（詳しくは、広報だいせん1月号をご覧ください。）

#### 【身近な家族の中の取り組み】

最も身近な家族の中でも、ジェンダーの平等について考えることができます。例えば、あなたの家族の中の役割分担を次のように洗い出してみましよう。『外で働いている人はいますか?』『掃除や炊事、洗濯などの家事は誰がどれくらいやっていますか?』『子どもの面倒は誰がどれくらい見ていますか?』

自分の家族のことを調べてみると、今まで気づかなかったジェンダーギャップを見つけれられるかもしれません。もし、誰かだけ負担がとて重いとわかったら、仕事や家事、子育てを分担していくことも、ジェンダーの平等を達成する一歩になります。ぜひ家族で話し合ってみましよう。